

# Passport

2020 SPRING Vol.43

男らしさ、女らしさにとらわれず、自分らしく暮らせる社会。お互いに認め合い、個性と能力を発揮できる佐賀市の実現をめざしましょう。

☆ ☆  
「一言メッセージ」  
作品集発表会



♡♡♡  
中越典子さんに  
インタビュー!



☆男女共同参画に  
関する講座・  
セミナーいろいろ☆



## CONTENTS

- |                        |    |                    |    |
|------------------------|----|--------------------|----|
| ・一言メッセージ作品集発表会         | P1 | ・はじめてのネットショップセミナー／ |    |
| ・2019 女・男フォーラム「市民防災講座」 | P2 | 政治参画セミナー           | P5 |
| ・女優の中越典子さんに聞きました!      | P3 | ・男女共同参画推進協賛事業所の紹介  | P6 |
| ・パパの料理教室&夫婦で家事シェア講座    | P4 | ・研修報告              | P7 |

# 一言メッセージ作品集発表会

開催日：令和2年2月1日（土）  
会場：ほほえみ館

4月14日の「パートナーデー」ができた経緯やそれにちなんで14年前から募集を始めた「一言メッセージ」事業について、今までの活動報告がありました。

「一言メッセージ」とは佐賀市男女共同参画ネットワーク「結い」が4月14日の「パートナーデー」にちなんで作品の募集、審査、表彰を毎年行ってきた事業です。

発表会では、これまでの14年間の活動の集大成として作品集が完成したことの報告や、活動時の苦労話、今までの受賞作品の紹介がありました。

初めは男女の関係である「パートナー」に関するメッセージが多かったものが、徐々にその対象は広がり、子どもから家族、家庭から社会・地域まで拡大していき、中には故人をしのいでのメッセージもあったそうです。

作品には、感謝や思いやりの気持ちがあふれていて、それが男女共同参画社会づくりへの第一歩であると思えました。

2月14日はバレンタインデー、3月14日はホワイトデー、4月14日はパートナーデーと、佐賀から発信してきたパートナーデーですが、これからも老若男女問わずパートナーには感謝ができる人・地域になっていくことを願います。

これまでの、佐賀市男女共同参画ネットワーク「結い」の皆さんの活動に敬意を表します。



## 一言メッセージ の思い出



### 結いさんからのメッセージ

たくさんの皆様のご協力のおかげで14年間継続することができ、感謝しております。

子ども達の中にも少しずつ男女共同参画の意識が芽生え始めた事が、寄せられる作品を通して感じられるようになり、嬉しく思いました。

「一言メッセージ」は終わりましたが、これからも家庭の中から地域から職場から、思いやりの心が広がっていったら良いな～と思います。

4月14日は、これからも人と人との結びつきを大切にと願う「結い」の記念日になりました。

長い間お世話になりありがとうございました。

「結い」会員一同

# 2019 ひとひと 女・男フォーラム「市民防災講座」 女性目線で考える地域防災～過去の教訓から～

一言メッセージ作品集の発表会に引き続き、関西学院大学客員教授で公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事の大崎麻子さんを迎えて防災講座を開催し、107名の参加者の皆さんと地域防災について考えました。

前半は、大崎さんのこれまでの国内外で女子教育をされてきた経験を語られ、世界の状況や日本のジェンダー平等が進んでいない現状などをデータで示しながら説明されました。さらに後半は、東日本大震災後に調査された中で明らかになった「女性目線で考える地域防災」の必要性について教えていただきました。講演の内容の一部を紹介します。



## 大崎 麻子さんプロフィール

米国コロンビア大学国際公共政策大学院で国際関係修士号を取得後、国連開発計画(UNDP)でジェンダー平等と女性のエンパワーメントの推進を担当し、世界各地で女子教育や災害復興などのプロジェクトを手がけた。東日本大震災後は、被災地での女性支援プロジェクトやジェンダー視点からの調査・政策提言活動に従事した。

現在は、フリーの国際協力・ジェンダー専門家として、国内外で幅広く活動中。



▲多くの方にご参加いただきました

この数年大規模自然災害が急増している中で、防災・減災・災害対応には「ジェンダーの視点」が欠かせません。それは、災害が与える影響が男性と女性では異なるからです。生物学的にも、社会的・文化的に形成されたものも違うので、抱える困難も支援ニーズも異なるのです。また、災害被害者が「尊厳のある避難生活」を送れるようにするための最低基準、『スフィアプロジェクト』を知っておくことも大切です。

東日本大震災では、男性と女性で異なる被災体験から、多くの教訓が得られています。死者数、雇用、睡眠、避難所生活、ニーズなど、参考になるデータもいろいろあります。応急対応期、復旧復興期など時期に

よっても起こる問題は異なります。

地域の防災力は「自助」「共助」「公助」といわれます。特に直後は、近隣住民や地域の人たちが互いに協力し、助け合う「共助」が重要です。その活動の中核となるのが、地域防災リーダーです。リーダーは、男性だけでなく男女ともにいたほうがよいといえます。地域の人々の多様性を理解し、地域の人々の力を発揮させるためにも、男女が共に参画することが重要です。

また「公助」を機能させるためにも、市町の防災会議の委員に女性を増やし、行政が男女共同参画の視点を持った施策を行うことができるようにする。災害にどう対応するかではなく、平常時からやっておくことを、男女で一緒に決め、備え、地域の実情に合わせて考えておくことが、災害に強い地域社会を作ることになります。

## 災害に強い地域社会を作るには

**災害リスク軽減 (Disaster Risk Reduction=DRR)**  
「災害にどう対応するか」のノウハウでなく、「どうやって災害のリスク(被害)を最小限にするか」を考える

### これからの防災

- ✓「共助」を機能させるため、地域の防災活動に男女がともに参画する
- ✓「公助」を機能させるため、行政が男女共同参画の視点を持った施策を行う
- ✓女性の意見を反映させるため、防災に係る政策・方針決定過程に女性が参画する

男性中心型  
の防災



男女共同参画の  
視点からの防災

内閣府研修資料

## 参加者の声

- ・平常時から男女共同参画の視点を持ち取り組んでいくことが重要だと思いました。
- ・「受援力=がまんしないが必要」が印象に残りました。
- ・「スフィア基準」について、普及してもらいたい。
- ・理解できないところも多々あるため、防災分野には男女の視点が必要。

### 【講演を聴いて】

まだまだ防災に関して意思決定の場は男性が中心です。地域や職場も同じですが、その中で少しでも意見を言えるようになっていくことも大事だと感じました。

編集委員 今町真由美・草場栄美

<中越典子さんインタビュー>

**あわただいい毎日ですが、夫と協力して、仕事と子育てを楽しんでいます。**

Q 2人のお子さんとの現在の生活は？

A 長男が2歳、長女が1歳です。下の子がちょうど歩き始めたばかりで、目が離せません。

上の子のお世話をしている間に転んだり、ぶつかったりするので、「そっちに行っちゃダメ!」「さわっちゃダメ!」など大声で叫んだりして、毎日あわただしく過ごしています。夜に天使のような子どもたちの寝顔を見て、怒りすぎたなと反省することもあります。



晴れた日のお出かけは気持ちいいですね。自然に触れて、子どもたちもご機嫌です。

Q パパは育児や家事に協力的ですか？



友だちの子どもたちと一緒にフィンガーペインティングをしました。五感をフルに使って、良い刺激になりました。

A はい。仕事が終わったらまっすぐ帰ってきて、子どもの面倒をみたり、食器を洗ったりしてくれます。最初は些細なことでもたくさんケンカもしましたが、その都度話し合っ、ルールを決めて、うまく協力し合えるようになりました。パパがいつも遊んでくれるので、長男はすっかりパパっ子に。保育園への送り迎えはなるべく私がして、長男と二人だけで過ごす時間を確保するようにしています。

Q 今後もお仕事は続けていけますか？

A 10月19日に開催された「第2回さが維新まつり」の「さが維新行列」で、鍋島直大夫人・栄子（ながこ）役を務めさせていただきました。たくさんの人に見てもらって、声援をもらって、夢中になってやり遂げました。終わった後は達成感と充実感に包まれ、仕事はやはり私の一部だなと思いました。子育てだけをしていると毎日同じことの繰り返しで、子どもはどんどん成長するのに、自分は置いてけぼりになったような気がします。仕事でパワーをもらって、リフレッシュして、また子育てを頑張るという良い循環で、これからも仕事と子育てを両立していけたらいいなと思っています。

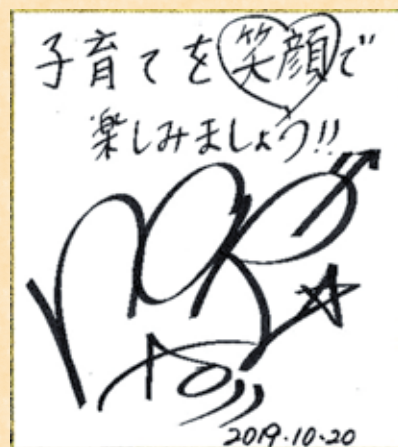


「第2回さが維新まつり」には、栄子様明治期の社交の場でお召しになられていたバスルドレスを模して制作されたドレスで参加しました。



女優  
佐賀市プロモーション大使  
なかごしのりこ  
**中越 典子さん**

1979年生まれ。佐賀県佐賀市出身。佐賀県立佐賀北高等学校（芸術コース）卒業。2003年、NHKの連続テレビ小説『こころ』でヒロイン・こころ役で主演に抜擢され女優として本格始動。以降、テレビドラマや映画、舞台、ナレーターなど幅広く活躍中。2017年5月に男の子、2018年11月に女の子を出産し、現在2児のママ。夫は俳優の永井大さん。4月から始まるドラマ『特捜9 season3』（テレビ朝日）に出演。



佐賀市の子育て中の皆さんへ直筆のメッセージをいただきました。

(インタビュー・文)  
人権・同和政策・男女参画課  
男女共同参画室 副室長  
南雲 千寿

パパと作っちゃお!  
**パパの料理教室**

**夫婦で家事シェア講座**

開催日：令和元年12月15日(日)  
 会場：ほほえみ館

佐賀市と佐賀県との共催で開催された講座に、9組16名が参加されました。

ファザーリングジャパン九州の早田宝得<sup>ともり</sup>さんを講師に招き、普段料理をしていない人でも簡単にできる料理や家事シェア（家事分担）について学びました。

前半は男性だけで調理実習。女性は調理の様子を見学。後半は参加者全員で料理を試食しながら、日本の男性の家事事情や、家事分担のコツを学びました。

**本日の献立**  
 がめ煮  
 きのこの味噌汁  
 卵焼き  
 ごはん



真剣に講師の説明を聴く参加者達



材料を切ります



初めてできた卵焼きに  
 満足そう♪



できあがり!!



みんな揃っていただきます☆

**【夫婦で家事シェアのポイント】**

- ★急に家事分担するのではなく、  
「できることを互いにコツコツと」
- ★家事の内容の見直し
  - 効率化** …食器洗浄機、ロボット掃除機、乾燥機
  - 完璧を求めない** …同じようにできると考えない
  - 任せてみる** …分担をした家事には、極力口を出さない



**【参加者の声】**

- 説明がわかりやすく料理も上手く作れた。
- お互い気づいたり、家事の分担について考えることができ本当によかったです。
- 日ごろ私（妻）が作っていますが、料理をしている夫の様子が楽しそうによかったです。

## 各種セミナー報告

### はじめてのネットショップセミナー

開催日：令和元年9月28日（土）  
会場：ほほえみ館



福博印刷株式会社  
ふくだ けんご  
福田 健悟さん

女性の起業支援事業として、ネットショップ開設による起業や業務拡大に興味がある女性を対象に、福博印刷株式会社の福田健悟さんを講師に迎え、「ネットショップをはじめるための基礎知識」をテーマにセミナーを開催しました。

セミナーでは、開設に必要な基礎知識として、色々なネットショップシステムやネット販売とリアル販売の違いについて学びました。また、ネットショップを続けていくために、売れる商品の特徴やファンの作り方を教えていただきました。

参加者同士で話し合うワークでは、お互いのこれまでの経験や困っていること等について情報交換を行い、充実した活気のあるセミナーとなりました。



▲セミナーの様子



ネットショップに興味はあったが、何も知らなかったので、基本的な話が聞けてよかった。

#### 参加者の声

いろんな年代の方とお話できる機会が持ててよかった。



▲参加者がワークを通じて情報交換をしました

今までの失敗の理由が分かった。

次は写真撮影の方法や商品説明などの文章の書き方が知りたい。

### 政治参画セミナー

女性議員が増えると暮らしが社会が変わる  
～議会に多様な声を届けるために～

開催日：令和元年11月21日（木）  
会場：佐賀女子短期大学



お茶の水女子大学  
ジェンダー研究所准教授  
しん 申 千代さん

#### セミナーを受講して

「男性の参加はあまり多くないのでは…」という危惧の念をもって参加しましたが、男性の議員や関心のある男性の参加もあり、女性だけでなく男性もこの問題に積極的に関わり、意識を変革していくことが大切だと思いました。また、佐賀女子短期大学の学生も参加しており、学生のころから女性の政治参画に関心をもつきっかけになる貴重な機会になったと思いました。

（編集委員 椋島陽一郎）

政治分野における男女共同参画を進めるためのセミナーに、74名の方が参加されました。「政治は『男性がするもの』から始まった」という衝撃的なタイトルから始まり、世界の国々の女性議員数の比較が示されました。日本の女性議員数は依然として低く、20%未満（2019年）に過ぎませんが、世界には女性議員が50%以上の国が4か国あることを紹介されました。

また、国内の地方議会においても女性や若手議員が少ない現状があり、その背景には男性議員は選挙区からの支援や資金不足が障壁になっているが、女性議員は、立候補する時点で家庭内の責任や性別役割意識という障壁があるということでした。

多様な背景をもつ若手や女性が政治参画を行うことによって、政治の公平性が高まり、政策に変化を及ぼしたり、世代間の議論が活発になって政治文化が変わったりするなど、政治への無関心や政治不信からの回復が期待できます。

女性議員が増えるためには、女性議員志望者の人材育成も必要な柱であることを話されました。そのためには、3つのC（Confidence：自信、Capacity：スキルの習得、Community：仲間とつながる）を身に付けさせるトレーニングをすることの必要性を説かれました。ジェンダー問題に気付き、自己肯定感を高め、将来のキャリアの一つとして考え、政治で解決したい「政策課題」を見つけ、同じ志をもつ仲間と議論するなどして、政治参画への意識を高めていくことが大切であることを主張されました。



▲市とアバンセの共同で開催しました

# 佐賀市男女共同参画推進協賛事業所紹介

市とともに男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいただいている協賛事業所を紹介します。(五十音順)

## 株式会社イマリ (鍋島) 小売業



当社は女性向け商品を主とした小売業、飲食業など5部門を経営しております。

プライベートと仕事、両方の充実を目標に働きやすい環境づくりを心がけています。ノー残業デーや子どもたちが事務所の見学を行う「子ども参観日」も実施しており、近隣中学校から職場体験学習の生徒たちを毎年受け入れ、地域にも貢献しています。

## 社会保険労務士法人 きたむら事務所

(天神)  
専門サービス業



当事務所は、社会労務士業を通じていきいきと働ける職場づくりの支援をしています。

2016年には、次世代育成支援対策推進法に基づき、行動計画に定めた目標を達成し、「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定(くるみん認定)を受けています。自社が率先して、ワーク・ライフ・バランスに取り組み、男女がともに働きやすい職場をめざしています。

## 駒井歯科医院

(多布施)  
医療業



当歯科医院は、女性の歯科医師も子育て中で、スタッフ全員が結婚、出産後も勤務しています。子育てに大事な学校、地域行事等にも積極的に参加を促しています。子どもの病気や怪我の際には、「お互いさま」で助け合う環境づくりをめざして、今後も仕事と家庭の充実、ワーク・ライフ・バランスを支援し続けていきたいと思っております。

## 株式会社 秀信土木建設

(金立)  
土木業



当社は、一般土木工事をを行っています。社員のほとんどが男性で一般的にも「建設業=怖いイメージ」があるため、そのイメージが少しでも親しみやすくなるように先代のアイデアで重機をキリンの模様にしてあります。

また、男女関係なく家族の行事や病気等による休暇を取りやすい環境づくりと雰囲気づくりに努めています。

## 学校法人 永原学園

(神園)  
教育・学習支援業



本学園は、西九州大学グループとして、大学、短期大学、専門学校、幼稚園、保育園を擁し、総合教育ネットワークを展開しています。

計画年休による年次有給休暇の取得促進や育児目的休暇もいち早く制度化するなどして、職員のワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の支援を行っています。

## 男女共同参画推進協賛事業所募集中!

事業所での男女共同参画の推進は、子育て環境の整備や仕事と家庭生活の両立支援など、事業所のイメージアップに繋がります。

協賛事業所への登録をお待ちしています!

担当: 佐賀市人権・同和政策・男女参画課  
男女共同参画室

電話: 0952-40-7014

FAX: 0952-34-4549

申込用紙は佐賀市ホームページからもダウンロードできます。

詳しくは 佐賀市HP <https://www.city.saga.lg.jp/main/3196.html>



# 2019年度 市民参加研修報告

2020年1月18日に香川県高松市で開催された「男女共同参画フォーラム SDGsと女性エンパワーメント」に参加してきました。香川県内外から、約300名の参加があり、SDGs（持続可能な開発目標）達成のために自分に何ができるかを考えました。その内容の一部を紹介します。

報告者：大野恭子（新ぼすぽーと編集委員）、芦原美保（人権・同和政策・男女参画課主査）



## ■基調講演「SDGsと女性エンパワーメント」

講師：新田 英理子 氏（一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク 事務局長）

近年、急速にSDGsが国内にも広がってきましたが、改めて「SDGsとは何か」について解説されることから講演はスタートしました。

SDGs策定の際には、市民の声を反映させるために外務省と市民との対話の窓口が設置されたそうです。

日本では、大企業が熱心に取り組んでいる側面が目立ちますが、SDGsは国連が定めた遠い目標ではありません。様々な中小企業、市民団体、あらゆる地域で生活する個々の人々がそれぞれの立場で取り組み始めています。目標を達成するためには、政府や世界の機関に頼るばかりでは到底達成できないのです。

昨年の12月に、日本政府の方針を改訂した際に、市民からの意見の約3割が「ジェンダー平等が遅れている」という意見だったことを踏まえ、方針の優先課題に掲げられました。

全員の知恵を結集させて、女性のエンパワーメントに活用し、情報共有する社会にしていくことが重要です。

2030年の時点で「誰ひとり取り残さず」理想の世界になるために、今何をすればよいのか、といった逆算していく発想の大切さを力説されました。



## ■パネルディスカッション「だれ1人取り残さない社会を目指して」

パネリスト：宮本 吉朗 氏（一般社団法人香川経済同友会 代表幹事）ほか

第2部のパネルディスカッションでは、おもに香川県内の企業の方々から、それぞれSDGsを踏まえた企業での取組などを発表されました。

各企業の企業理念がSDGsのターゲットの中でどれにあてはまるかを紐づけて取り組まれていること、さらには、一つの企業だけではなく、企業のトップなどで構成される団体での活動内容もそれぞれSDGsのターゲットに紐づけて取り組まれていることを発表されました。

特に遅れている「ジェンダー平等」の目標達成のための取り組みとしては、企業内の管理職に積極的に女性を登用したり、女性起業家の勉強会をしたりといった取り組みも発表されました。女性活躍を支援することが地域の活性にもつながるとのことです。



### 感想

冒頭に、香川県においても女性活躍を重要な方針の一つに掲げて取り組んでいると挨拶されました。

地域の団体が丸丸となって取り組むことによって、全体の機運が高まっているとのことでした。佐賀や全国各地においてもこうした機運が高まると、目標達成に近づき、「誰一人取り残さない」世界ができるのだと感じました。

### 編集後記

2019年に発表されたジェンダーギャップ指数の日本の順位が121位で、過去最低となってしまいました。また、「ジェンダー平等」が、日本国内のSDGsの優先課題にも掲げられました。

従来のように女性だけに家事を负担させているのは改善されません。お互いに感謝の気持ちを忘れず、できることから始めましょう。

### 編集委員

今町真由美・大野 恭子・椋島陽一郎  
草場 栄美・矢ヶ部ひとみ

※編集委員は、市民の方にご協力いただいております。

### 発行

「ぼすぽーと」に関する  
ご意見・ご感想を  
お寄せください。

佐賀市人権・同和政策・男女参画課

〒849-0919

佐賀市兵庫北三丁目8-36（ほほえみ館内）

TEL 0952-40-7014

FAX 0952-34-4549

URL <http://www.city.saga.lg.jp>

E-mail [jinken@city.saga.lg.jp](mailto:jinken@city.saga.lg.jp)